

スペシャルすまいる

No.54
2018 January

NIKKO City Council of
Social Welfare

Public Relations Magazine "SPECIAL SMILE" of Nikko-Shakyo



今回で13回目を迎えるユース共働プロジェクト。

去る9月9日～10日の2日間、異なる地域の中高生がつながり、実践を通じて相互に見聞を広め、明日への活力の場とすることを目的として実施しました。ボランティア活動を行なっている日光市の中高生と新潟県妙高市の高校生が植樹や小学生のサポート等のボランティア活動を行ないました。



この広報紙の発行にはみなさまからご協力いただきまして赤い羽根共同募金の配分金が使用されています。

共働とは・・・

協力して動くという関係から、お互いの役割と責任を認め合い、相互関係を深めながら「共に働く」、「行動する」、「新しい関係を築いていく」という意味をこめて「共働」を使用しています。

CONTENTS

- 会長年頭あいさつ 2ページ
- 防災カフェ 3ページ
- 介護支援ボランティア 3ページ
- 縁側プロジェクト活動報告 4～5ページ
- 会費報告 6ページ
- 寄付・義援金報告 6ページ
- 寄付金制度周知 6ページ
- 社会福祉大会案内 7ページ
- 「支えあい」自治会活動久次良町シリーズ② 8ページ

2018

新年のごあいさつ

「誰もが安心して暮らすことのできる
福祉のまちづくりを目指して」

社会福祉法人 日光市社会福祉協議会

会長 斎 藤 文 夫



新年、明けましておめでとうございます。

市民の皆さんにおかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、日光市社会福祉協議会に対しまして多大なるご支援・ご協力をいただき謹んで感謝申し上げます。

さて、今日、急速な少子高齢化や地域・家庭の希薄化が進むとともに、近年多発する災害への備えや社会的孤立、子どもの貧困等が社会問題になるなど、地域社会を取り巻く環境が大きく変化しており、これまでの社会福祉の枠組みでは対応しきれないような様々な課題が広がっています。

こうした中、本会では平成28年度からの5ヶ年計画であります「第2期日光市地域福祉活動計画」に基づき「誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくり」を基本理念として、市内13の生活圏域ごとの福祉課題、生活課題等を地域住民が主体となり解決できるような仕組みづくりに取組んでいます。

更に、昨年の11月30日から12月1日の2日間にわたり、東日本では初めての開催となる「全国校区・小地域福祉活動サミット」が日光市で開催され、全国各地から、福祉への関心を寄せる約1,000人の方々にご参加をいただきました。

様々なテーマに基づき、小・中学校区、あるいは町内会、自治会エリアで取り組まれている地域での実践活動が報告され、全国の皆さんの豊富な知恵やアイデア、豊かな経験を学び、地域福祉活動への更なる一歩を踏み出すきっかけづくりになったのではないかと思います。

また、改正社会福祉法が本格施行され、経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取り組みを実施する責務など、地域福祉を推進する中核的な組織として、より一層の自覚と適切な事業活動の推進が求められているところであります。

本会は法の遵守はもとより社会情勢、生活課題やニーズに即した事業展開、市民の皆さまの主体的な活動を支援しながら、地域の課題解決への支えあいの創造と、豊かな福祉コミュニティづくりができるような取組みを継続していく所存でございますので、市民の皆さまにおかれましては、引き続き本会に対しましてご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとって健やかで幸多き年でありますようご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

災害にもつよい
まちづくりを目指して

防災カフェ

開催中

防災カフェとは…

災害・防災についてもっと学びたい方や、興味はあるが何をしていいのかよくわからない方などが集まり、コーヒーやケーキを楽しみながら、簡単な防災・楽しい防災にふれる場です。毎月第4土曜日15:00~17:00に「コミュニティカフェおおぞら」で開催しています。

どんなことをしているの…

防災教材などを使用しながら、防災や備えについて気軽に話し合ったり、楽しく技術を身に付けています。

ビニール袋を用いた炊飯や調理を行う「炊き出し訓練」、カードを用いて避難所を模擬体験する「避難所運営ゲーム」、自宅から指定避難場所までの避難経路や危険箇所を示した「わが家の防災マップ作り」などを行っています。



災害への備えは出来ていますか?

自分や家族の身を守り、災害の被害を小さくする術と一緒に楽しく話し合ってみませんか。

【参加申込・お問い合わせ】地域支援チーム(担当:樽谷) 電話 0288-21-2759

防災カフェの詳細は日光市災害ボランティアセンターFacebookページをご覧下さい。



1月17日は「防災とボランティアの日」この日を機会に防災対策やボランティアについて考え、災害に備えましょう!

日光市介護支援ボランティア ～登録者及び受入施設・事業所 合同研修会～



介護支援ボランティアとは元気な高齢者が地域の介護施設等でボランティア活動を行うことにより、ご本人の健康づくりと、地域貢献を通じた「生きがいづくり」を促進することを目的としています。

去る、11月2日に介護支援ボランティアに登録しているボランティアと受入施設・事業所による合同研修会を開催しました。

施設・事業所の説明や活発な意見交換を行い、今後のボランティア活動を更に充実させるためのきっかけづくりになりました。現在、施設・事業所では、ボランティアに対する、需要が益々高まっています。介護支援ボランティアとして登録するには対象者の条件はありますが、「何かをはじめたい」と考えている方は、下記連絡先まで気軽に連絡下さい。



【登録先・お問い合わせ】

法人経営チーム(担当:大島・飯田)

電話 0288-21-2759



今市地域(今市・落合・豊岡)

人間
時間
空間
ヒト
モノ
トキ

がゆるやかに、つながり合う
地域の居場所

希薄化する人間関係を結びなおし、互いに支えあい
安心して暮らすことのできる地域づくりを推進するため
には、人と人が日常的にふれあう機会が必要です。

昔はどこにでもあった日本家屋の縁側。不思議と人
や情報などが集まって、地域のことならなんでもそこ
で分かるような地域の居場所がたくさんありました。

日本家屋の減少に伴い縁側がない住まいの方が
多くなりましたが、自然と人が集り、話をしたりお

まちの縁側とは…

茶を飲んだりしていた“縁側”は、今も場所や形を変
えて存在しています。

ご近所のお茶会や井戸端会議、公園のベンチ、お店
やスーパーの休憩所など日常生活の中で自然と人が
集まりつながる場所も“縁側”です。

「まちの縁側」は、そうした日常的に人が集まり人
間関係がより豊かになる「地域共生の場」を指します。

まちの縁側
を推進しています

…『まちの縁側』はこんなところ

- ①とにかくみんなが楽しくほっこりできる場です。
- ②たくさんの人たちが出会える場、活躍できる場です。
- ③人や社会とのつながりを実感できる場です。
- ④自分を知り、お互いを理解し合える場です。
- ⑤地域の困りごとの発見や解決につなげる場です。



庭先が縁側



ベンチが縁側

人が集まる場所には自然と地域の情報も多く集まります。「まちの縁側」は地域内における人と人との交流
を促進するだけでなく、地域のさまざまな情報が集まる場所にもなります。「まちの縁側」が地域住民だけでなく
なく、行政や福祉・医療の専門機関などとつながることで、地域の困りごとを解決する場にもなります。

今市地域内に既に存在している「まちの縁側」を発掘するとともに、その取り組みを広げていくことで誰もが
安心して暮らすことのできる地域づくりを推進していきたいと考えています。

写真提供：まちの縁側育みプロジェクトながの

・大沢・塩野室)の活動報告

今市地域では

第1回「まちの縁側」講座開催!

担い手
養成講座

平成29年9月17日に今市地域の5地区合同で「まちの縁側」講座(担い手養成講座)を開催しました。当日は、NPO法人まちの縁側育くみ隊代表理事の延藤安弘氏を講師に招き、33名の参加者と共に「まちの縁側」について学びました。

第1部 幻燈会

延藤先生の幻燈会は、絵本の一場面や実際にまちづくりの現場の様子を次々と映し出し語りかけてくるものでした。

実際の映像を通して「まちの縁側」のイメージをつかみました。



第2部 まち歩き

参加者が6グループ(5コース)にわかれまち歩きを行いました。

まち歩き手帳を使用しながら、「まちの宝」「まちの困った」「提案」「インタビューの記録」を探しました。

第3部 ワークショップ

幻燈会・まち歩きを行って、各グループごとに話し合いを行い模造紙にまとめて発表を行いました。

最後に延藤先生から、下記のようなまとめの言葉をいただきました。



「まちの縁側」講座～延藤先生まとめ～

- い いっぷくベンチをみんなで手づくり!お休み処を点から線へ!
- ま まちを歩いて楽しい庭先、みちばたに花や緑、維持管理を!
- い 居心地の良さは、決まり事のないルーズさから!気軽に多世代あつまっ亭!!
- ち ちらちら、きらきら☆もったいない宝を生かす裏路地!表みち!縁ロード!縁コースづくり!!
- 縁 縁がありそう!縁側人(キーパーソン)と空き家・店舗(キースポット)をつなぐ人!!
- が 我を生かし、多様な、好きなことをむすぶゆるやかさが大事
- わ ワクワク・ドキドキ!子どもが行きたくなる居場所づくりを!
- へ 変なトラブルをエネルギーに変え、縁側活動を伝え合い持続へ

皆さまのお気持ちありがとうございました。

平成28年度は、1,707,069円の寄附をいただきました。

税制上の優遇措置について

日光市社会福祉協議会は、社会福祉法人となっており、本会に対する寄附には、所得税法による寄附金控除、法人税法による寄附金の損金算入等の優遇措置があります。



※寄附金控除計算式※(個人の場合)

寄附金額 - 2,000円 = 年間所得総額から控除される金額
(詳しくは、市税務課又は管轄税務署にご確認ください。)
※控除を受けるためには、確定申を行なう必要があります。

寄附金は、本会の活動を支える重要な財源です。金額の多少を問わず、年間を通じて受け付けておりますので、みなさまのお気持ちをお寄せください。

たとえば、こんな寄附をいただいているます。

- 町内会、趣味の会、企業などのイベントでの収益を
- 個人的な記念日等にあわせて、毎年一定の額を
- 店頭に募金箱を置いて、集まったお金を
- 冠婚葬祭でいただいた慶祝金や弔慰金の一部を(また、返礼の代わりとして)



寄附報告

平成29年9月1日～平成29年11月30日

(一般寄附)

取扱	寄附者名	金額
本所	NPO 法人日本入れ歯リサイクル協会	10,501
本所	早川 勇	2,000,000
本所	栃木県西部生コンクリート協同組合	100,000
本所	西部生コン株式会社	100,000
今市	今市公民館 ふれあい教室	2,960
今市	小野 ヨシエ	10,000
今市	ヘアーデザイン VIVID	14,180
今市	今市公民館 いきいき教室	10,370
今市	社会福祉法人三光会特別養護老人ホーム 誠心園	9,302
今市	日光グラウンドゴルフ協会	9,260
今市	矢野美枝子絵手紙教室一同及び絵手紙展来場者	14,460
今市	小野 ヨシエ	10,000
今市	今市陶友会	20,000
足尾	両毛ヤクルト販売株式会社	10,000

(物品寄附)

取扱	寄附者名	品物
本所	町田 正明	球根
日光	奥日光幸寿会	車椅子(3台)
藤原	上遠野 政和	車椅子(1台)

社会福祉協議会会員 会費募集結果のご報告

総額
13,087,953円

平成 29 年 11 月現在

平成29年度の社会福祉協議会会費募集につきましては、多くの市民・事業者等の皆さまのご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この会費は、本会及び地区社協の活動を支える貴重な財源として、各種事業や会の運営に活用させていただきます。

今後も、皆さまの参加を得て、「誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくり」を目指した組織・事業運営を進めてまいりますので、ご理解とご支援をよろしくお願ひいたします。



第12回 日光市社会福祉大会

日 時

平成30年 2月3日(土)
午後1:00～3:30

会 場

日光市今市文化会館

入場無料

手話通訳・要約筆記
託児あります。

第1部	式典(日光市社会福祉協議会長表彰)	午後1:00～
第2部	議事(大会宣言)	午後1:40～
第3部	記念講演 「夢と絆を求めて」～翻弄された運命の中で～ 講師：蓮池 薫氏	午後2:00～

記 念 講 演

「夢と絆を求めて」

～翻弄された運命の中で～

蓮池 薫 氏

(新潟産業大学経済学部准教授)



1957年新潟県柏崎市生まれ。

中央大学法学部3年在学中に拉致され、24年間、北朝鮮での生活を余儀なくされる。帰国後、1年間の市役所勤務を経て、新潟産業大学嘱託職員・非常勤講師として働くかたわら、中央大学に復学。2005年には初の訳書「孤将」を刊行。2008年3月には復学していた中央大学を卒業。2013年3月は新潟大学大学院博士前期課程修了。2013年4月現在は新潟産業大学経済学部准教授。著書、共著1冊を含め、5冊。うち2009年6月刊行の「半島へ、ふたたび」(新潮社)は新潮ドキュメント賞を受賞。2012年10月に「拉致と決断」(新潮社)を刊行。

拉致された当時の状況や24年間にわたって強いられた北朝鮮での暮らしを詳しく語ります。日本人であることを隠して子どもを育てたことなど、北朝鮮での生活について振り返り「まだ帰還されていない方々のことを思うと重苦しい思いになる」と胸の内を明かします。

被害者にとって拉致問題の解決は、自分の夢と家族の絆を取り戻すこと。「時間がかかるれば夢も絆も失われていく」と早期解決を訴えています。



第2回目は… おしゃべり昼食会

前回ご紹介の「ちょっと親切運動」を始めた当初は全く声がかかりませんでした。どうしたら利用してもらえるのか、自治会役員で話し合いました。回覧板を回しただけでは内容がわからないので、直接伝えようと考えたのが「おしゃべり昼食会」です。

さっそく効果があり、この昼食会から「ちょっと親切運動」がスタートできました。みんなでおしゃべりをしながらの食事やゲーム、なつかしの歌を大きな声で歌つたり、生活に役立つ情報の提供など盛りだくさんです。

参加者の皆さん、「ここに来ると美味しいものが食べられるんだよね。みんなで食べると楽しいし、ためになる。」と毎回楽しみにされています。

準備や当日のお手伝いは、自治会役員の他に地域の協力者を募りながら、年3回昼食会を実施しています。

人と人とのつながりが地域を笑顔に変える、そして笑顔の向こうには「安心」がある、そんな地域にしたいという久次良町自治会の皆さんのが伝わってきます。

聞いてみました!

参加者の声



道ですれ違っても挨拶しなかつた人と話ができるようになった

神戸 光江さん

初回から参加しています。参加するようになって、以前は道ですれ違っても挨拶しなかつた人と話ができるようになり、交友関係が広がりました。いつも参加している人が来ないと、心配になります。

これからも人との交流を続けて、元気に暮らしていきたいと思っています。

協力者の声



笑顔を見るとうれしくなる

**斎藤さん
梅原さん、
佐藤さん** (左から)

- みんなで献立を考えたり調理したりするのは楽しいです。
- 父が参加していて、一緒に参加したりお手伝いができればと思い参加し始めました。
- 参加している方の笑顔を見ると、うれしくなります。



この日のメニューは、ひき肉の野菜のり巻き、たまごやき、ポテトサラダ、とうふとわかめの味噌汁、二色白玉だんご。

すべて手づくり、愛情が込もっています。